

年度	2026 年度
試験日	2025 年 10 月 4 日
学部	人間科学研究科
入試制度	修士課程 2 年制一般入学試験
試験科目	専門二次試験（臨床心理学研究領域）

### 出題意図 及び 解答例（解答のポイント）

#### 【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

#### ■出題意図

##### 【設問 1】

大学院人間科学研究科修士課程において研究を進めるにあたり、専門分野に関する基礎的学識に加え、研究デザインを適切に理解・評価する力を有しているかを測ることを目的として出題した。本設問では、心理療法の効果検証に関する基礎的理解、効果の持続性に関する視点、ならびに追跡調査に伴う方法論的・倫理的課題を踏まえた論理的記述力を評価する。

##### 【設問 2】

- (1) 大学院人間科学研究科修士課程において必要なデータを客観的に読み取る能力、文章表現能力、公認心理師の 4 つの業務について正しく理解し、具体的な活動を立案できるかについて測定することを目的として出題した。
- (2) 大学院人間科学研究科修士課程において必要となる基礎的な機能分析に関する知識、認知行動療法に関する知識を有しているかについて測ることを目的として出題した。

#### ■解答例（解答のポイント）

##### 【設問 1】

論述問題につき解答例は示せない。解答・評価にあたっては、心理療法の効果検証における効果の持続性の理解に加え、追跡調査で生じ得るドロップアウトによるサンプルバイアス、測定効果、倫理的配慮への言及の有無を重視する。あわせて、専門分野に関する学識と、学際的視点から研究を遂行する力を総合的に評価する。

##### 【設問 2】

- (1) 論述問題につき解答例は示せない。回答・評価にあたっては、①データを正しく読み取り現状を考察できていること（外来患者の増加の可能性、認知症の割合の増加、入院患者の減少等）、②公認心理師の主たる 4 つの業務（アセスメント、対象者への支援、関係者に対する支援・多職種連携、心の健康に関する啓発可動等・研修等）を踏まえて具体的な支援策を記述できていること、

を重視し、総合的に評価する。

- (2) 論述問題につき解答例は示せない。回答・評価にあたっては、①機能分析的な視点から、人前で話す、電話対応などの社交場面に対する回避行動によって、症状が維持・悪化していることを説明できていること、②エクスポージャーや認知的アプローチ、マインドフルネスアプローチ等の認知行動療法的アプローチを具体的に挙げていること、共同的経験主義について触れていること、を重視し、総合的に評価する。